

## 中長期目標一覧（職業安定関係）

項目	目標設定時	現在値 (直近の値)	中長期目標値 (目標年)
① 20～64歳の就業率(※1)	75% (2012年)	79.2% (2016年)	81% (2020年)
② 失業期間6ヶ月以上の者の数(※2)	151万人 (2012年)	103万人 (2016年)	2割減少 (今後5年間)
③ 転職入職率(パートタイムを除く一般労働者)(※2)(※3)	7.4% (2011年)	8.5% (2015年)	9% (今後5年間)
④ 産業雇用安定センターの機能強化や民間人材ビジネスの活用により、今後3年以内(2017年まで)で2万人の失業なき労働移動を支援(※4)	1万人 (2013年度)	3.0万人 (2016年12月末現在)	2万人の失業なき労働移動を支援 (今後3年以内)
⑤ 20～34歳の就業率	74.4% (2012年)	77.7% (2016年)	79% (2020年)
⑥ 不本意非正規雇用労働者の割合(※5)	18.1% (若年層:28.4%) (2014年)	15.6% (若年層:24.4%) (2016年)	10%以下 (若年層:半減) (2020年)
⑦ 60～64歳の就業率	57.7% (2012年)	63.6% (2016年)	67% (2020年)

出所) 現在値 厚生労働省「職業安定業務統計」「雇用動向調査」  
総務省「労働力調査」

- ※1 就業率とは、各年齢層に占める「就業者」の割合。
- ※2 円滑な労働移動の動向については、②③④の指標をワンセットで注視する。  
また、②③④の指標と併せて、次の指標を参考指標として注視する。  
i) 入職率(入職前1年間に就業経験がない者も含めた動向に着目するため)  
2013年:12.6%、2014年上半期:8.5%(前年同期差1.0ポイント増)  
ii) 転職入職者の賃金変動(転職後の労働条件の動きを把握するため)  
2013年:▲4.0ポイント(増加-減少)  
2014年上半期0.5ポイント(増加-減少)(前年同期差3.8ポイント増)
- ※3 転職入職率とは、在籍者(1月1日現在の常用労働者数)に対する転職入職者(入職者のうち、入職前1年間に就業経験のある者)の割合のことをいう。
- ※4 (公財)産業雇用安定センターにおける出向・移籍成立件数及び労働移動支援助成金の対象者数
- ※5 不本意非正規とは、現職の雇用形態(非正規雇用)についての主な理由が「正規の職員・従業員の仕事がないから」と回答した者。割合は、非正規雇用労働者のうち、現職の雇用形態についての主な理由に関する質問に対して、回答をした者の数を分母として算出している。  
「若年層」は25～34歳の者の割合。